

## 国立大学法人広島大学中期目標

【平成28年3月 1日 文部科学大臣提示】  
【平成30年3月26日 文部科学大臣提示】  
【平成31年3月26日 文部科学大臣提示】  
【令和 2年3月19日 文部科学大臣提示】  
【令和 3年3月 9日 文部科学大臣提示】

### (前文) 大学の基本的な目標

#### 1 理念

「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、平和を希求する精神、新たなる知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革、という理念5原則の下に、国立大学である広島大学に課せられた使命を果たす。

#### 2 基本方針

広島大学は世界最初の被爆地である国際平和文化都市ヒロシマの総合研究大学として、国際水準の教育研究の展開に向けて、研究大学強化促進事業やスーパーグローバル大学創成支援事業（トップ型）なども包含する「広島大学改革構想」を着実に実行し、徹底した「大学改革」と「国際化」を推進し、今後、10年以内に世界大学ランキングトップ100に入る総合研究大学を目指す。

さらに、本学の特長や強みを伸ばすとともに、時代や社会の要請に応じて、日本を代表し世界をリードするナショナルセンターとしての機能と、中国・四国地方のリージョナルセンターとしての機能を果たし、「100年後にも世界で光り輝く大学」となることを目指す。併せて、本学の伝統と実績を活かした教養教育を根幹に「平和を希求する国際的教養人」の養成を行うとともに、世界トップレベルの研究に裏打ちされた国際的に通用する専門教育を提供し、世界や地域社会で活躍できる人材の養成を行う。

研究については、研究大学強化促進事業等を活用して、第2期中期目標期間より取り組んできた研究拠点の構築や研究環境の整備等の重点支援を進め、自由で独創性の高い研究を推進し、世界トップレベルの研究を展開する。本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、機能性材料創製、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジーなどの分野において質の高い先端研究を発展させる。また、原爆の惨禍から復興を支えてきた大学として放射線災害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学研究の質の高い先端研究を発展させる。

教育については、スーパーグローバル大学創成支援事業等を活用して、第2期中期目標期間に策定した「広島大学改革構想」を具体的に実施していくことにより、国際通用性の高い教育を提供し、人類が直面する予測不能な種々の課題を解決することのできる教養と専門的知識及び能力を有し、平和を希求するグローバル人材を養成する。また、教育の国際標準化及び質の向上を図るため、教育の内部評価システムを充実させ、評価に基づき改善を行うとともに、国際大学間コンソーシアム（SERU）による外部評価を受審する。

社会貢献については、革新的イノベーション創出プログラムや科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業等を活用し、第2期中期目標期間より取り組んできた地域に集積する輸送機器や機械分野等の産業界及び広島県を中心とする地域社会との連携の高度化に向けた取組を重点的に進め、国際競争力の向上やイノ

バージョン創出等に貢献する。また、グローバル指向が強い広島県地域の要請に応えて、地（知）の拠点整備事業や本学独自の地域貢献事業等も活用して、地域を志向した教育・研究を推進することでグローバルにも活躍できる人材を養成し、地方の創生・活性化に貢献する。

大学運営については、教育、研究、社会貢献の機能を最大限に発揮できるように、ガバナンス体制を恒常的に見直しつつ、学長のリーダーシップの下で経営基盤を強化し、本学の教育や研究面でのパフォーマンスをモニターする独自の目標達成型重要業績指標（AKPI<sup>®</sup>）等やIR（インスティテューショナル・リサーチ：大学における諸活動に関する情報の収集・分析）機能を活用した分析を基に本学の強みや特色を活かす戦略的なマネジメントを行う。

## ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

### 1 中期目標の期間

平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

### 2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点を置く。

## I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

### 1 教育に関する目標

#### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

##### (学士課程)

【1】 人類が直面する予測不能な種々の課題を発見し解決することのできる教養と専門的知識及び能力を身に付け、平和を希求するグローバル人材を養成する。

##### (大学院課程)

【2】 高度な専門的知識を基礎に自ら価値を生み出し、人類が直面する予測不能な種々の課題を発見し解決するとともに、平和を希求してグローバルに活躍する高度専門人材を養成する。

##### (専門職学位課程)

【3】 高い倫理観を持ち、社会の法的ニーズに応じた適切なリーガル・サービスを提供できる専門職業人としての優れた法律専門家を養成する。

【4】 学校における諸課題について、優れた実践的対応力と実践研究力を備えた新人教員、ミドルリーダー及びスクールリーダーを養成する。

#### (2) 教育の実施体制等に関する目標

【5】 教育の国際標準化を推進し、質の向上を図るため、他大学とも連携して、全学的実施体制を強化する。

#### (3) 学生への支援に関する目標

【6】 多様なニーズを持った学生（留学生、社会人、障がい学生等）に対する支援を拡充するとともに、学修環境を整備・充実する。

#### (4) 入学者選抜に関する目標

- 【7】 国内外から多様な背景を持った優秀な人材を受け入れるため、新たな入学選抜を実施する。

## 2 研究に関する目標

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- 【8】 自由で独創性の高い研究を推進し、個性ある研究分野における、国際発信力を高めるとともに、国内外の他機関とも連携しながら世界トップレベルの研究の達成を目指す。

### (2) 研究実施体制等に関する目標

- 【9】 研究活動を適切に評価できるように研究マネジメント機能を強化し、重点領域に効率的な研究支援を行う。
- 【10】 研究資源を学内外で有効に活用し、本学の強みであり特色である研究の発展に資するとともに、我が国の学術研究の発展に貢献する。

## 3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- 【11】 地域に集積する輸送機器、鉄鋼、機械分野等の産業界及び広島県を中心とする地域社会や他大学等と密接に連携し、国際競争力の向上やイノベーション創出等に貢献するとともに、地域を志向した教育・研究を推進する。

## 4 その他の目標

### (1) グローバル化に関する目標

- 【12】 徹底した「国際化」を全学的に実施することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化し、世界大学ランキングトップ100を目指すための取組を進める。

### (2) 附属病院に関する目標

- 【13】 安全管理体制を強化し、安全で質の高い医療を提供する。
- 【14】 政策医療実施病院として、地域の医療の高度化に貢献するとともに、拠点医療機関としての役割を果たし、将来アジアのメディカルセンターとしての拠点形成を目指す。
- 【15】 卒前教育、卒後教育、生涯教育を通じて医療人の教育・研修機能を充実し、優れた医療人の育成を行う。
- 【16】 教育や臨床研究推進のための組織体制の整備を行い、先端医療開発を展開し、特色ある研究、診療の拠点形成を目指す。
- 【17】 経営基盤を強化し、効率的な経営を推進することにより、継続的・安定的な病院運営を行う。

### (3) 附属学校に関する目標

- 【18】 スーパーグローバル大学創成支援事業で掲げた目標達成を目指す大学の附属学校として、さらには幼稚園から高等学校まで全ての学校種を有している強みを活かして、あらゆる発達段階の児童・生徒を対象とした教育研究、教育実習にグローバルな視点を取り入れるとともに、広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。

## II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### 1 組織運営の改善に関する目標

- 【19】 大学の強みや特色を活かし、教育研究機能を最大限に発揮するための実効性・透明性のある運営体制を構築する。
- 【20】 学長のリーダーシップを強化するための環境整備を行い、IRを活用し戦略的な学内資源配分を行う。
- 【21】 国際レベルの競争的な環境における教育研究への取組に向け、教職員の国際通用性を高める。
- 【22】 教育研究活動の支援強化のため、専門性を備えた職員の人材養成を行う。
- 【23】 教職員のワーク・ライフ・バランスを推進するとともに、大学運営における意思決定の場に女性を積極的に登用する。

### 2 教育研究組織の見直しに関する目標

- 【24】 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会的ニーズ等を踏まえ、本学の特長や強みを活かした柔軟かつ最適な教育研究組織を再構築する。

### 3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- 【25】 事務等の効率化・合理化のため、組織・業務の見直しを進めるとともに、職員の能力向上を図る。

## III 財務内容の改善に関する目標

### 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- 【26】 総合研究大学として、国際水準の教育研究の展開を行うべく、財政基盤の充実・強化を図る。

### 2 経費の抑制に関する目標

- 【27】 財務指標の可視化を通して、管理的経費等の効率的執行を行う。

### 3 資産の運用管理の改善に関する目標

- 【28】 全学的な視点から保有する資産（施設、設備）の有効活用を行うとともに、不断の見直しを行う。

## IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

### 1 評価の充実に関する目標

- 【29】 総合研究大学として教育研究の活性化のため、自己点検・評価を基に、外部からの組織評価を実施する。

### 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- 【30】 社会への説明責任を果たすため、自己点検・評価の実施状況の情報公開を積極的かつ的確・着実に実施する。
- 【31】 国内外における本学の知名度及びレピュテーションの向上に資する広報活動を展開する。

## V その他業務運営に関する重要目標

### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標

【32】 魅力あるキャンパスの整備を推進するため、施設整備キャンパスマスタープランに基づき施設の整備を推進するとともに、総合的な施設マネジメントを行う。

### 2 安全管理に関する目標

【33】 安全管理体制を強化し、安全文化の醸成を図るため、教職員のリスクマネジメント及び安全衛生についての意識を向上させる。

### 3 法令遵守等に関する目標

【34】 社会への説明責任を果たすため、信頼性・透明性の高い、健全で適正な大学運営を行い、法令等の遵守を徹底する。

別表1 (学部, 研究科)

|             |   |
|-------------|---|
| 学<br>部      | 総合科学部<br>文学部<br>教育学部<br>法学部<br>経済学部<br>理学部<br>医学部<br>歯学部<br>薬学部<br>工学部<br>生物生産学部<br>情報科学部   |
| 研<br>究<br>科 | 総合科学研究科 (R 2 募集停止)<br>文学研究科 (R 2 募集停止)<br>教育学研究科 (R 2 募集停止)<br>社会科学研究科 (R 2 募集停止)<br>理学研究科 (R 2 募集停止)<br>先端物質科学研究科 (R 2 募集停止)<br>医歯薬保健学研究科 (H31 募集停止)<br>工学研究科 (R 2 募集停止)<br>国際協力研究科 (R 2 募集停止)<br>人間社会科学研究科 (R 2 設置)<br>先進理工系科学研究科 (R 2 設置)<br>統合生命科学研究科<br>医系科学研究科 (H31 設置)<br>法務研究科 (法科大学院) (R 2 募集停止) |

別表2 (共同利用・共同研究拠点, 教育関係共同利用拠点)

|  |
|--|
| <p>【共同利用・共同研究拠点】</p> 原爆放射線医科学研究所<br>放射光科学研究センター<br>ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 <p>【教育関係共同利用拠点】</p> 生物生産学部附属練習船豊潮丸<br>統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション (農場)<br>統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター竹原ステーション (水産実験所)<br>統合生命科学研究科附属臨海実験所 |
|--|